

ペー(白)族の民族衣装

女性用(白族)(頭飾り、ベスト、上衣、前掛け、ズボン 標本番号H226747~226751)
 男性用(白族)(頭飾り、ベスト、上衣、ズボン 標本番号H226739~226742)中国

横山 廣子 (よこやま ひろこ)

本館民族社会研究部

中国雲南省大理市では一九八〇年代前半以降、観光化が進んだ。服飾はこの地域にあつても時代を反映して変化を遂げるが、近年、当地のペー族の青年男女の民族衣装としてこのような衣服が登場した背景には、観光化が大きな要因のひとつとしてある。

以前とは素材がまず違う。かつての生地は木綿が多く、刺繍には絹が用いられたが、現在は化学繊維全盛で、できあいの刺繍テープもよく使われる。扱いやすく、舞台衣装のような鮮やかさのある素材が選ばれる。

それまで女性の大半が民族衣装を毎日着ていた村でも、若い娘が次第に着なくなつたのと歩調を合わせて、このような民族衣装が出現した。観光客の接待や歌や踊りを披露する時、あるいは祝祭時の晴れ着として、娘たちがこれを着る。既婚女性でも、この未婚用の衣装を着てみやげものを買っていたりする

ることがある。若い男性用は踊りを踊る時以外、ほとんど着用されない。

形態も変化を遂げた。頭飾りは男女とも着脱が簡単な帽子式になつている。以前は男性は布をターバン状に巻き、女性は布を何枚も重ね、その上に三つ編みにした髪に赤い毛糸を結んだのをぐるぐると頭に回して留めていた。今や三つ編み部分も黒い毛糸でつくりつけるので、

短髪でも、これをかぶればペー族の娘らしく見える。

上衣、ズボン、ベスト、前掛けからなる女性用の服は、ベストの左肩の飾りボタンがただの飾りになり、前身ごろは開かない。代わりに後ろと脇のフアスナーで脱ぎ着する。前掛けは後ろの鍵ホックで留



め、その上に蝶形のリボンと二枚の垂れが下がり、ひもで結んでいるように見せている。これだと短時間で誰が着てもさまになる。このような衣装は観光みやげとしても売られてきた。最近では現地観光ガイドの女性が、ペー族ではなくても、これを着て団体旅行客を案内するようになった。